

1 学校教育目標

かんがえる子 がんばる子 やさしい子 げんきな子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい学校」「通わせたい学校」「勤めたい学校」 ・児童が安心・安全に過ごすことができ、「できた・分かった」を体感できる学校 ・開かれた学校を推進し、保護者・地域が児童の健やかなる成長を実感できる学校 ・教職員が協働し支え合い、児童の笑顔から活力をもらえる学校
○児童・生徒像	・かんがえる子：学び方を身に付け、自分の考えを表現できる子 ・がんばる子：自分に自信をもち、より高い目標に向かって努力を続ける子 ・やさしい子：自分のよさと友達のよさに気付き、互いを認め合う子 ・げんきな子：心身の健康に気を付け、進んで運動に取り組み、安全に心がけて生活できる子
○教師像	○常に向上心をもち、児童と一緒に伸びようと努力する教師 ・教材研究と授業改善に努め、児童に成就感と達成感を与えられる教師 ・優しさ、温かさ、厳しさをもって指導し、児童が「愛されている」と実感させられる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○児童について

明るく素直な子供たちが育っている。行事等特別活動に意欲的に取り組む児童が多く、高学年を中心としてよりよい学校にしようと頑張っている。本校の基本的な生活習慣の合い言葉「かみきそあじ＋1」（家庭学習習慣の定着、携行品の確認、聞き方の統一、掃除・片付けの定着、立ち止まり挨拶、時間の厳守＋靴のかかと揃え）が定着しており、礼儀正しさが感じられる。持久走や長なわや短なわなど季節に合わせた運動を行い、体力づくりにも積極的に取り組んでいる。

○教職員について

児童に寄り添う指導を行い、教材研究や教材作成を熱心に行う教員集団である。タブレット端末が導入されてからは、若手教員、ベテラン教員とも ICT 教育について研修を行い、授業で積極的に活用している。長く本校に在籍している教員はいなくなり、若手教員が多くなった。経験は浅いが先輩教員の指導を受け授業力向上によく努めている。

○保護者・地域について

両者とも学校教育に対し非常に協力的である。様々な場面でボランティアとして学校を支援してくれている。コミュニティ・スクールとして学校運営にも参画してもらっており、地域の熱い思いが伝わってくる。学校・保護者・地域が「チーム栗北」として、子供の健全育成に取り組むことができる。

【前年度の成果と課題】

○学力の向上

区学力調査の目標通過率は、2教科平均 82.7%（国語 81.6%、算数 83.8%）で達成基準を上回ったが、まだ十分とは言えない。補充学習等の基礎学力定着の取り組みの効果を高める工夫が必要であった。校内授業研究やOJTなど授業力向上に向けた取り組みは十分に行うことができた。

○豊かな心の育成

令和3年度より始めた読書マラソンを今年度も継続して行う。自己肯定感や思いやりの育成は目標を達成することができた。体験的な学習を多く取り入れ、情操教育に努めていく。

○健康・体力の保持増進

新型コロナウイルス感染症に係わる状況の改善に伴い、運動発表会やマラソン記録会の公開、水泳指導、なわとび月間を実施できた。12月から校庭で遊べる学年の制限をなくし、児童の日常の運動量を少しずつ増やすことができた。しかし、体力の低下が見られるので、年間を通して体力向上を図れるよう体育授業の改善、休み時間の活用を工夫していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健康・体力の保持増進	○	○	○	○	○
4						

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン		
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
基礎基本の確実な定着	5年度の目標通過率80% 定着確認テスト 70%	区調査において5年度の目標通過率81.8%であった。2月実施の定着度確認テストは 67.6%であった。	教科別の目標通過率は国語 85.3、算数 78.3であった。国語は目標を達成したが、今後算数の基礎基本の定着を図る。学習の定着状況と具体的な取組は6（1）を参照。	○

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習 (パワーア ップタイム)	全学年 国語 算数	毎週火・ 木曜日 始業前 10分	【指導者体制】担任 【取組のねらい・目的】 学習内容の復習・確認。 【使用教材】国語、算数のAI ドリル	国語、算数ともにワークテスト を活用して児 童の達成状況 を確認する。	ワークテストの個 人平均正答率 80%を80%以 上(年2回、学期 末)。	朝学習で基礎の定着 ができていない児童 を放課後補充教室で 指導し、つまずきの解 消を図った。算数の観 点「知識・技能」のワ ークテストの平均正 答率は 79.8%であ り、80%以上を達成 した児童は 58.4%で あった。	進度に応じたプリン ト学習を行ったが、 平均正答率 80%を超 えることができなかった。算数の定着に二 極化が顕著に見られ 課題がある。 A I ドリルの活用を 進めて前学年にさか のぼって知識・技能 の習得を図る。	△
2 継続	放課後 補充教室	全学年 国語 算数	・放課後 毎週月・ 金曜日 全員会 議の時 を除く	【指導者体制】 担任・管理職・専科。 【取組のねらい・目的】 つまずきがある児童を対象と し、少人数指導体制で基礎 学力の定着を目指す。 【使用教材】AIドリル、計算 等のプリント、文章読解、言 語事項、漢字。	担任が児童 個々の指導目 標を設定す る。AIドリルの 学習ログやワ ークテストを活 用して、児童 の達成状況を 確認する。	個のつまずきに 応じた指導目標 を達成した児童 の割合 85%以 上。 (年3回、各期 末)	朝学習や単元テスト でつまずきがある児 童を選び、主に漢 字・計算について定 着を図った。特に算 数の理解不足の課題 を繰り返し復習させ た。	指導対象児童を絞 り、より個々のつま ずきに応じた補充学 習を行ったが基礎の 定着が不十分となっ た。完全に定着させ るために継続指導が 必要である。	△
3 継続	サマースク ール	全学年 各学年約 10名程度 国語 算数	夏休み 期間中 の10日 各日50 分(前期 8日、後 期2日)	【指導者体制】 担任＋管理職・専科 【取組のねらい・目的】 下学年にさかのぼって、つ まずきを解消する。また、夏 休み前までの授業内容の定 着をねらい、個別指導を行 いながら宿題を行う。 【使用教材】ベーシックドリル、 計算プリント、AIドリル	AIドリルや夏 休み終了後ベ ーシックドリル で前学年の学 習内容につい ての確認テスト を行う。	算数はベーシッ クドリルを行い、 平均正答率7 5%以上の結果 を出す。	全学年(各クラス5人 程度)が10日間実施 した。5、6年生は さらに5日間の夏休 み算数学習教室を実 施した。プリント、ド リル、A I ドリルな ど、使用教材を個人 に応じて変えて取り 組んだ。	児童のつまずきに対 し下学年の内容にさ かのぼって個別指導 することができた。全 教員が指導にあたり 学校全体で取り組ん だ。教科、単元が個に よって異なるため効 果検証が困難だった。	○

4 継続	家庭学習 強化	全学年 国語 算数 その他	年3回 6月 10月 1月	【取組のねらい・目的】 家庭学習強化週間3回実施し、家庭学習の実践と家庭への啓発を図る。	家庭学習状況 調査を行う。	10分×学年の 達成率90%以上 の結果を出す。	年2回の実施とした。調査対象1週間の目標達成率は、10月91.0%、2月90.6%であり、目標を達成した。	家庭学習強化週間以外に実施した調査では達成率が7～8割なので習慣が定着するよう取り組む。AIドリルを推進する。	○
5 継続	校内研究 の充実	全教員	年7回 の研究 授業	【取組のねらい・目的】 伝え合う、話す力の育成を図り、教員の指導力向上を図る。低・中・高・専科で4つの研究授業・協議を行う。該当学年以外も研究授業を行い校内で公開する。	研究授業の実 施回数	各学年1回、年間7回の研究授業。	年間4回の校内研究授業と3回の事前授業を行った。2月児童アンケートで「グループ活動で積極的に発言したり、意見を考えたりできた」低学年81.9%、高学年77.2%だった。	研究・研修を実施し全学年で伝え合う、話す力の育成に取り組んだ結果、児童の話し合いスキル・意欲の向上、教師の授業力向上が図れた。今後も継続していく。	◎
6 継続	小中連携 による授業 力の向上	全教員 全教科	年7回	共通のテーマをもとに授業を公開し、協議することで向上を図り、児童の学力向上につなげる。	公開授業の実 施回数	小学校研究授業3回、中学校研究授業1回、合同研修・指導案検討等3回。	2月児童アンケートで「授業のめあてを理解し見通しをもって学習した」94.2%、「授業の振り返りをして学習に興味関心をさらにもった」86.3%であった。	教科ごとに小中の教員が協議、検討を行い、連携して授業改善に取り組んだ。小中連携校との共通実践について一定の成果が得られた。	◎
7 継続	ICTの活用	全教員 全教科	通年	【取組のねらい・目的】 ・タブレットを活用して児童のICTスキルと情報活用能力を育成。 ・ICTを活用した分かりやすい授業を実施。 ・AIドリルを活用した基礎基本の定着。算数の授業でAIドリルでつまずきの多かった問題を週1回以上取り上げて、解説を行う。	授業観察 作品 スキル確認 AIドリル使用 状況	・3年生以上で文字入力、ネット検索、高学年でプレゼン資料作成の指導実施。 ・AIドリル強化月間300問。 ・週1回以上解説した教員数100%。	全学年でタブレット端末を活用した。3年生以上は全員が文字入力と検索ができた。5、6年全員が資料作成できた。ジャムボードやフォーラムなどアプリを活用した授業を実施できた。AIドリル強化月間は255問で目標に達しなかった。	校内でICT活用研修を実施し、全教員が授業においてICT機器を活用できた。今後もICTを用いた授業の充実を図り、児童の学力向上、ICT活用能力育成を図る。AIドリルの活用推進を図ることが課題である。	○

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分のよさを自覚し、自他ともに尊重し合う行動様式を身に付ける。		区学力調査の質問項目「自分には良いところがある」で70%以上。 校内調査で「自他を大切にしている」90%以上。	質問項目「自分には良いところがある」で4月区調査時は79.2%、校内調査時は9月79.5%、1月82.4%だった。 質問項目「自他を大切にしている」で9月94.2%、1月96.8%だった。	児童同士が互いのよさに目を向け、褒めあえる活動に後期から学校全体で取り組んだ。WEBQU結果等を活用して支援の必要な児童への予防的支援を行い、よりよく生活できる環境を整える。学級間の差が課題である。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
豊かな心を育む読書活動の充実	年間を通して読書マラソンに取り組む。 目標を50%が達成する。(1月末) ・50冊または10,000ページ。	・春と秋に読書旬間を実施する。 ・担任・図書ボランティア等による読み聞かせを実施する。 ・図書館との連携を図る。	通年で読書を推奨し、全校読書旬間(6,10月)、図書ボランティア等による読み聞かせ活動を実施した。学校図書館の貸し出し冊数は、1人当たり月4.9冊で良好であった。読書マラソンカードの取組は、2月末56%で目標達成した。	読書をしてカードに未記入の児童がいるので個々の読書量把握が困難だが、読書マラソン達成者は複数回達成が多く意欲が向上した。読書量の個人差が大きかった。	○
自己肯定感の育成 思いやりの心の育成	「かみきそあじ」調査で自己肯定感に関するアンケート項目で80%。 自他の尊重で90%。	・WEBQU アンケートの分析と校内体制で支援を行う。 ・全教職員による「ほめ育て」の実践。 ・体験的学習の実践。 ・ボランティア活動の実践。	縦割り班での音楽会の感想交流や各学級での友達のよさの発見・掲示に全校で取り組んだ。いのちの誕生授業、道徳授業(認知症サポーター講座)など外部講師による授業を実施し指導の充実を図った。 1月の校内アンケート調査では、自己肯定感82.4%、自他の尊重96.8%で達成基準を上回った。	児童同士のかかわりの中で相手を思いやる心が育っている。今後学校全体でポジティブ行動支援を推進する。WEBQUの結果要支援児童へのサポートを継続すると同時に、計画的に児童のソーシャルスキルを育てていく。	○
命をつなぐ千住ネギの栽培活動	・4年生が年間を通して、千住ネギを栽培し、種を次年度の4年生に引き継ぐ。	・千住ネギ栽培を引き継ぐ意義を理解させる。 ・花壇ボランティアや農業委員の力を借りながら1年を通して栽培を行う。	今年度も4年生が千住ネギを栽培・収穫し、次年度に種を引き継いだ。学校のSDGsの取組に位置づけ、学校全体で食育や伝統の継承について考える機会とした。	活動の意義を4年生なりに理解できた。栽培活動は大人の力を借りる場面が多かったので、より主体的な活動にしたい。	○

重点的な取組事項－3		健康・体力の保持増進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活習慣の定着と体力の向上		「かみきそあじ」調査3回、生活振り返り週間の調査・結果周知を2回行う。 体力テストの都平均を半分の種目(各種目の学年・男女別)で上回る。	生活振り返り習慣調査を2回実施した。体力テスト8種目をそれぞれ学年別、男女別に96種目に分けると男子18、女子30、合計48種目が都の平均を超えた(前年比+7)。	体力向上に取り組んだ。日常的な運動量確保が課題である。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上 (特に投力)	体力テストの都平均で前年度を上回る。各種目を学年・男女別にした96種目中、半分の48種目で都平均を上回る(前年度は41種目)	・投力を高める運動を毎時間の学習過程に組み込む。 ・業間体育(マラソン、短なわ)の実施。 ・運動の日常化。	体力テストで半分の48種目で都平均を上回った。経年比較で男子は5,6年生、女子は2,4,5,6年生が昨年度より都平均を上回る種目が増えた。男女により得意な種目が分かれた。苦手な種目は長座体前屈だった。投力が都平均を超えたのは女子は1～4年生、男子は1年生のみだった。マラソン、縄跳びの練習期間を設定し体力向上を図った。	女子は全学年がシャトルランで都平均を超え持久力がついている。中学年以上の投力が向上するように授業改善を図る。児童の日常的な運動量・動きの種類は確実に減っているので、体育の授業以外の運動の機会をつくる。	○
基本的な生活習慣の定着 (特に挨拶・整理整頓)	小中連携校で共通実践「かみきそあじ」(家庭学習・身に付けるもの・聞き方・掃除・挨拶・時間を守る)調査で85%。	・年3回の生活振り返りの実施。 ・毎日の挨拶運動。 ・児童朝会での啓発。 ・調査結果の提示。	「かみきそあじ」調査の平均は9月85%、1月87.7%で目標を達成した。靴そろえは90%以上の児童に定着している。挨拶は代表委員会児童が朝の挨拶週間を企画・提案し1月に実施した。基本的な生活習慣の定着が学級によって大きな差がある。	挨拶はお辞儀はできるが立ち止まることの定着は約8割なので指導を継続する。学級間の差が課題である。6年生が下級生の手本となる栗北小のよき伝統を継続し、児童のよさを褒め定着させたい。	○
保健衛生指導の推進	・虫歯罹患率15%未満。 ・虫歯未治療率30%以下(年度末)。	・1年生のハロー6ちゃん教室や3年生の染め出し等歯みがき指導の実施。 ・継続した虫歯治療勧告。 ・ポスターコンクールへ参加。 ・年間を通した手洗いの励行。	・虫歯罹患率12%(前年-4)、虫歯未治療率27%(前年-9)で改善した。ハロー6ちゃん教室や染め出し等歯磨き指導を行った。保健委員会児童が歯磨きと受診勧奨の動画を作成し、全校生に周知した。	歯磨き指導を実施した。虫歯未治療の家庭への複数回の治療勧告や保健だよりでの周知を行った。虫歯未治療率が改善したので、今後も勧奨を継続する。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプランによる学習内容の定着

- 【課題】・区調査の目標通過率から学習の定着状況に課題があるのは、3年生の国語 74.4、算数 72.1、5年生の算数 67.2、6年生の算数 69.1であった。特に算数が課題であり、高学年は小数・分数の計算など計算領域についての習熟度が低い。
- ・1月末までのワークテストの観点別定着度では、国語「知識・技能」76.5%、「思考・判断・表現」80.6%、算数「知識・技能」79.3%、「思考・判断・表現」67.4%であった。算数の「知識・技能」は基礎基本として80%以上の定着を目指す。算数の「思考・判断・表現」は全学年で課題である。問題に取り組まずあきらめてしまう児童への支援が課題である。
 - ・放課後学習で個のつまずきに対する手当を行った。繰り返し指導したものの、基礎基本の知識・技能を定着させるまでいかなかった。AIドリルを活用した復習も行ったが、もっと効果的な利用方法を模索し、利用する時間、演習量を増やしていくことが課題である。
- 【対策】・授業では計算のきまりや仕方を定着させるため、計算の仕方を考えたり、工夫して計算したりする時間を十分に設定し、理解を深める指導をする。授業の最後に学習の振り返りを行い、理解を確実なものとする。
- ・算数習熟度別指導を充実させ、少人数指導で「できた・分かった」という自信をつけさせる。
 - ・つまずきを早期に発見し、朝学習、放課後学習で個別に指導にあたる。反復学習にAIドリルを活用し、「知識・技能」の習得を図る。

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

体験的な学習を多く実施し、児童の情操を育てる機会が増えた。WEBQU 調査テストを2回実施することで、児童や学級の状態を把握し、指導・支援につなげることができた。計画的、日常的に児童のソーシャルスキルを育てる指導をすることで、友達とのかかわりや学級集団とのかかわりに困り感を抱えている児童に対する手当となる。読書マラソンは目標には達しなかったものの、読書を頑張っている児童を表彰することで励まし、読書に継続的に取り組ませることには効果があった。

重点的な取組事項－3 健康・体力の保持増進

マラソン記録会、長縄跳び、短縄跳びには体育の授業以外にも休み時間に練習期間を設定し、目標をもって運動に取り組み、体力向上に努めた。投げ方教室や縄跳び授業など専門技能をもつ外部講師による授業を実施し、体力向上、運動意欲向上を図った。学校での生活習慣の定着は、「かみきそあじ+1」の調査で約90%という高い定着率であったので、今後も取組を継続する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、制限なく授業参観が実施できました。保護者、地域の皆様に子供たちや学校の様子を知っていただく機会が増えたことを大変うれしく思っております。普段の授業や本校の特色でもあるゲストティーチャーを招いての出前授業、縦割り班活動など様々な教育活動をご覧いただき、教職員の工夫や努力について励ましの声をいただき、肯定的な評価を数多くいただきました。問題点につきましては、今後改善に努めてまいります。学力定着については、達成基準を超えたといえまだ十分とは言えません。教員の授業力向上に励み、子供たちの基礎基本の習得、学力向上に全力で取り組んでまいります。豊かな心の育成については、落ち着いて学習・生活ができる学級・学校であるように学校全体で規範意識の育成に取り組めます。次年度も、「全ては子供たちのために」を合い言葉に教職員が一丸となって取り組んでまいります。保護者、地域の皆さまには感謝申し上げますとともに、次年度も引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

子供たちは友達や保護者に自分を見てもらえる、応援してもらえる、一緒にできることにうれしさや楽しさ、大きな喜びを感じ、いつも以上に意欲が沸き、素晴らしい力を発揮します。学校生活への期待・意欲の高まりが学びを充実させ、成長を助けます。私たち教職員は、日頃の教育活動で子供同士の学びあいの場やつながりをつくり出し、互いの考えやよさを伝え合い、認め合う学習活動ができるように取り組んでまいります。

